

2018年(平成30年)

8月10日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411(代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カシドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■概況

7/26~8/1のNYMEX・WTIは、67.66~70.13ドルの範囲で推移した。

8月2日は、前日のEIAの米国原油在庫の積み増し発表やドル高傾向を受けて売りが先行したものの、クッシングの原油在庫の減少報告や対イラン経済制裁の第1段実施が翌週に迫る中、需給ひつ迫感の高まりによって、反発した。9月限の終値は前日比1.30ドル高の68.96ドルだった。

週末3日は、米中貿易戦争の激化による世界経済への不安感の高まりから、反落した。ベーカーヒューズ社の国内石油掘削リグ稼働数は859基(前週比2基減)との発表もあったが、市場の反応は限定的だった。9月限の終値は前日比0.47ドル安の68.49ドルだった。

週明け6日は、ロイターがOPEC関係者の話として伝えた7月のサウジ産油量が日量1029万バレルと前月比同20万バレル減少したとの報道、また、7日から米国の対イラン経済制裁が機械類の取引禁止等について発効することなどから、反発した。なお、サウジは4日バブ・エル・マンデブ海峡経由の原油出荷を再開した。9月限の終値は前日比0.52ドル高の69.01ドルだった。

7日は、米国のイラン制裁再発動を受け地政学的リスクが再燃したが、ドル安の進行により上げ幅は抑えられ、小幅続伸した。9月限の終値は前日比0.16ドル高の69.17ドルとなつた。

8日は、米中の報復関税の応酬によるエネルギー需要への懸念、ドル高の進行に加え、EIAの在庫週報で、米国原油在庫が予想を下回る取り崩しにとどまつたことなどから、大きく反落した。9月限の終値は前日比2.23ドル安の66.94ドルと

なった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(9月渡し)は、前週72.10~73.60ドルの範囲で推移した。8月2日71.40ドル、3日71.90ドル、6日72.20ドル、7日72.80ドル、8日73.10ドルで推移した。

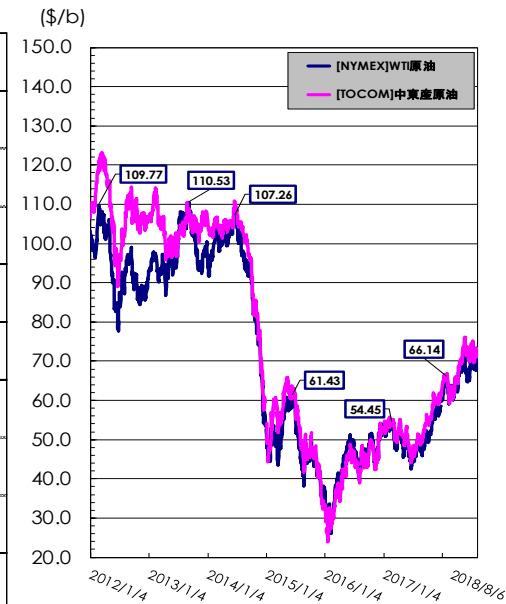
為替は、前週110.72~111.84円の範囲で推移した。8月2日111.73円、3日111.84円、6日111.24円、7日111.32円、8日111.45円で推移した。

財務省が7日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、7月中旬の原油輸入平均CIF価格は、52,822円/klとなり、前旬を485円下回った。ドル建てでは76.08ドルで前旬比0.87ドル安。為替レートは1ドル/110.37円。

主要元売会社の8月第2週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とともに、全社0.5円の値下げとなった。原油価格は値下がりし、為替レートの円安がこれをやや相殺したが、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、8月6日時点の小売価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油は同0.1円の値上がり、灯油は同1円の値上がり(18ヶ月ベース)だった。軽油は3週ぶりの値上がり、灯油も3週ぶりの値上がりだった。この週(8月第1週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに1.0円の値上げとなった。

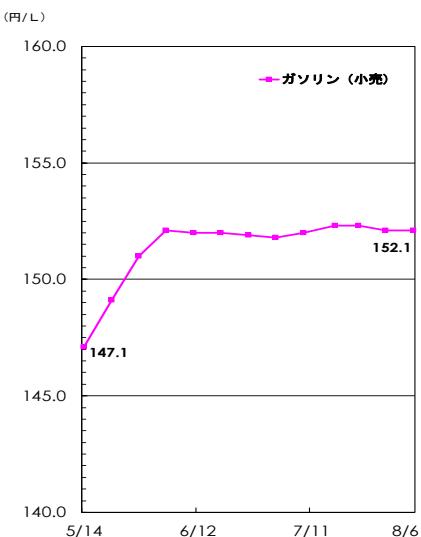
原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	7/29 ~ 8/4	3,491	▲ 13	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	89.2	▲ 0.4	▼ -
	原油在庫量 (千㎘)	8/4	12,219	▼ -28	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	8/6	71.77	▼ -1.01	▲ 20.9
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	8/6	69.01	▼ -1.12	▲ 19.6
	原油 CIF単価 (\$/bbl)	7月中旬	76.08	▼ -0.87	▲ 27.73
	①原油CIF単価 (¥/㎘)	"	52,822	▼ -485	▲ 18,633
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.37	▼ -0.22	▲ 2.04
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/6	112.24	▼ -0.13	▼ -0.56



ウィークリー オイル マーケット レビュー 18第18号

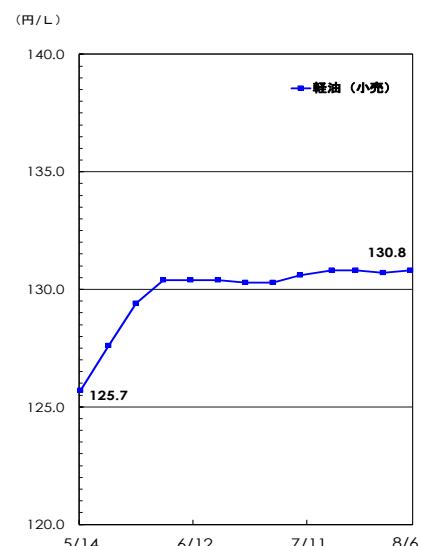
ガソリン		今週	前週比	前年比
需給		(千㎘)	(%)	(%)
需給	生産	7/29 ~ 8/4	1,106	▲ 24
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	1,065	▼ -26
	輸出	"	20	▼ -21
	在庫	8/4	1,504	▲ 21
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/31 ~ 8/6	67.8	▲ 0.8
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	7/31 ~ 8/6	64.6	▼ -0.1
		(TOCOM/中部)	8/6	64.5
			▲ 1.5	▲ 15.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/6	152.1	► 0.0

※業転、先物価格は税抜き価格

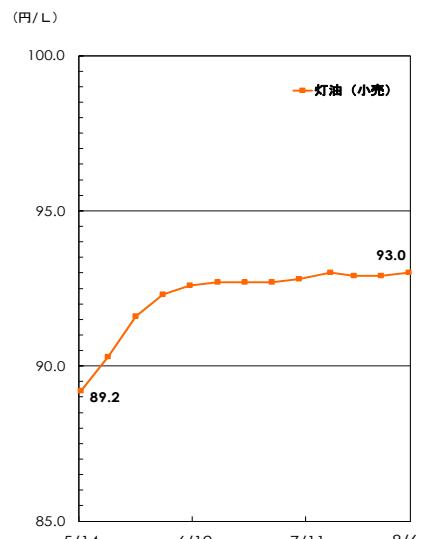


軽油		今週	前週比	前年比
需給		(千㎘)	(%)	(%)
需給	生産	7/29 ~ 8/4	786	▼ -14
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	613	▼ -65
	輸出	"	197	▲ 76
	在庫	8/4	1,424	▼ -23
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/31 ~ 8/6	68.8	▲ 0.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	7/31 ~ 8/6	69.0	► 0.0
		(TOCOM/中部)	8/6	-
			-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/6	130.8	▲ 0.1

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週	前週比	前年比
需給		(千㎘)	(%)	(%)
需給	生産	7/29 ~ 8/4	132	▼ -56
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	102	▲ 38
	輸出	"	0	▼ -40
	在庫	8/4	1,734	▲ 30
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/31 ~ 8/6	68.0	▲ 0.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	7/31 ~ 8/6	67.0	▼ -0.3
		(TOCOM/中部)	8/6	67.5
			▼ -1.5	▲ 19.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/6	93.0	▲ 0.1



■ 関連情報

1 海外/原油

8月8日のNYMEX市場WTI原油は、前日の米中による関税25%上乗せとそれに対する報復関税といった貿易戦争が、エネルギー需要に悪影響を与えるのではないかとの懸念、ドル高・ユーロ安の進行に加え、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、ガソリン在庫が予想に反して積み増しになったこと、国内原油在庫が前週比140万バレル減と市場予想(同330万バレル減)を下回る取り崩しにとどまったことから、大幅反落した。9月限の終値は前日比2.3ドル安の66.94ドルと1ヵ月半ぶりの安値、10月限の終値は前日比2.08ドル安の66.25ドルだった。

EIAによると、8月6日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.6セント値上がりの1ガロン2.852ドル(84.5円/㍑)となつた。ディーゼルは前週比0.3セント値下がりの3.223ドル(95.4円/㍑)。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは2週ぶりの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年7月29日～8月4日に休止したトッパー能力は23.8万バレル/日で、前週に対して同値であった。(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は349.1万㎘と、前週に比べ1.3万㎘増加。前年に対しては22.0万㎘の減少。トッパー稼働率は89.2%と前週に対して0.4ポイントの増加、前年に対しては5.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリンが増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/2.3%増、ジェット/10.2%減、灯油/29.7%減、軽油/1.7%減、A重油/0.3%減、C重油/7.8%減。今週のC重油の輸入は9.7万㎘(前週比3.9万㎘増)。軽油の輸出は19.7万㎘(前週比7.6万㎘増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、灯油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではジェット、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は106.5万㎘(前週比2.4%減)と前週比で3週振りで減少となり、3週連続で100万㎘を上回つた

ジェット13.8万㎘(対前週9.7%増)、灯油10.2万㎘(対前週59.1%増)、軽油61.3万㎘(対前週9.6%減)、A重油18.9万㎘(対前週10.3%増)、C重油26.0万㎘(対前週31.9%減)。

(単位:千㎘)

	今週 (7/29 ~ 8/4)	前週 (7/22 ~ 7/28)	前週比
ガソリン	1,065	1,091	▼ -26 (-2%)
ジェット燃料	138	126	▲ 12 (10%)
灯油	102	64	▲ 38 (59%)
軽油	613	678	▼ -65 (-10%)
A重油	189	172	▲ 17 (10%)
C重油	260	382	▼ -122 (-32%)
合計	2,367	2,513	▼ -146 (-6%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月4日時点の在庫は、ガソリン、灯油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては全ての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは150.4万㎘、前週差2.1万㎘増。前年に対しては18.5万㎘少ない。

灯油は173.4万㎘、前週差3.0万㎘増。前年に対しては19.7万㎘少ない。

軽油は142.4万㎘、前週差2.3万㎘減。前年に対しては0.3万㎘少ない。

A重油は72.7万㎘、前週差1.5万㎘減。前年に対しては3.0万㎘少ない。

C重油は191.0万㎘、前週差1.9万㎘増。前年に対しては21.6万㎘少ない。

(単位:千㎘)

	今週 (8/4)	前週 (7/28)	前週比
ガソリン	1,504	1,483	▲ 21 (1%)
ジェット燃料	994	1,011	▼ -17 (-2%)
灯油	1,734	1,704	▲ 30 (2%)
軽油	1,424	1,447	▼ -23 (-2%)
A重油	727	742	▼ -15 (-2%)
C重油	1,910	1,891	▲ 19 (1%)
合計	8,293	8,278	▲ 15 (0.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

7月31日から8月6日の原油価格は前週対比で値下がりし、為替レートの円安がこれをやや相殺したが、原油コストは値下がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、7月31日から8月6日までの間、ガソリン121～122円台で上昇後値下がり、軽油68～69円台で上昇後やや値下がり、灯油67～68円台で上昇後やや値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン124円台で横ばい

後値下がり、軽油70円台で横ばい、灯油66～67円台で値下がり後やや上昇して推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン117～119円台で大きく値下がり後わずかに上昇、軽油69円台で横ばい、灯油66～67円台で大きく値下がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、陸上取引で値上がり、先物軽油で横ばいだった以外は、海上取引・先物取引は値下がりした。

8月第2週(8月9日～8月15日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(7月31日～8月6日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油は0.5円の値上がり、軽油も0.5円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.1円の値下がり、灯油は0.5円の値下がり、軽油は0.2円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.1円の値下がり、灯油も0.3円の値下がり、軽油は横ばいだった。原油価格は値下がりし、為替の円安がこれをやや相殺したが、原油コストは値下がりした。

8月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とともに、全社0.5円の値下げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

		(単位:円/㍑)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (7/31～8/6)	前週 (7/24～7/30)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	67.8	67.0	▲ 0.8
	灯油	68.0	67.5	▲ 0.5
	軽油	68.8	68.3	▲ 0.5

		(単位:円/㍑)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (7/31～8/6)	前週 (7/24～7/30)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	64.6	64.7	▼ -0.1
	灯油	67.0	67.3	▼ -0.3
	軽油	69.0	69.0	► 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (7/31～8/6実績値) (単位:円/㍑)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.8	▼ -0.1	▲ 0.3
灯油	▲ 0.5	▼ -0.3	▲ 0.1
軽油	▲ 0.5	► 0.0	▲ 0.2
A重油	▲ 0.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月6日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの152.1円、軽油は同0.1円高の130.8円、灯油も同0.1円高の93.0円(18%ベースでは1円高の1,674円)だった。ガソリンは11週連続で150円を上回った。軽油は3週ぶりの値上がり、灯油も3週ぶりの値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは16県、横ばいは12都県、値下がりは19道府県だった。横ばいは、東京都ほか11県だった。

全国最安値は徳島県の146.5円(前週比0.5円高)、次が埼玉県の147.8円(同0.1円安)、最高値は長崎県の161.6円(同0.7円高)だった。最も値上がりしたのは、1.6円高の沖縄県(158.3円)、最も値下がりしたのは、0.7円安の鳥取県(149.2円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに1.0円の値上げとなった。今週の原油価格は値下がりし、為替レートの円安がこれをやや相殺したが、原油コストは値下がりした。次週(8月13日)のガソリンの小売価格は小幅な値下がりが予想される。

(単位:円/㍑)				
(資源庁公表) [週動向]	今週 (8/6)	前週 (7/30)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	152.1	152.1	► 0.0
	灯油	93.0	92.9	▲ 0.1
	軽油	130.8	130.7	▲ 0.1

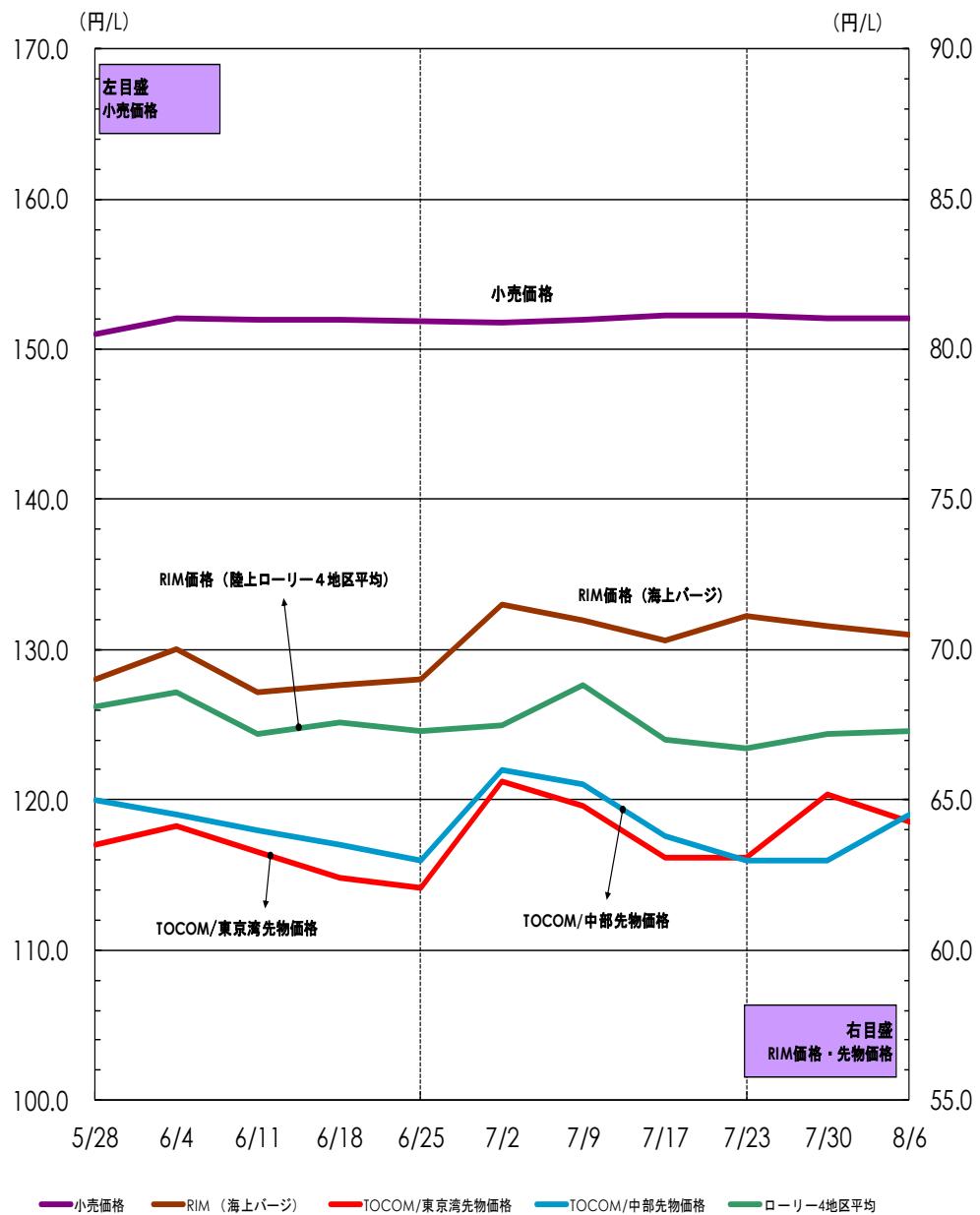
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/5/28 ~ 2018/8/6)



■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回（2018第19号）の公表は、8/24（金）14:00です。

「セルフSS出店状況」（平成30年3月末現在）は、7月31日（火）14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate : 中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LARRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM 〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査 〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁HPに掲載）。毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。